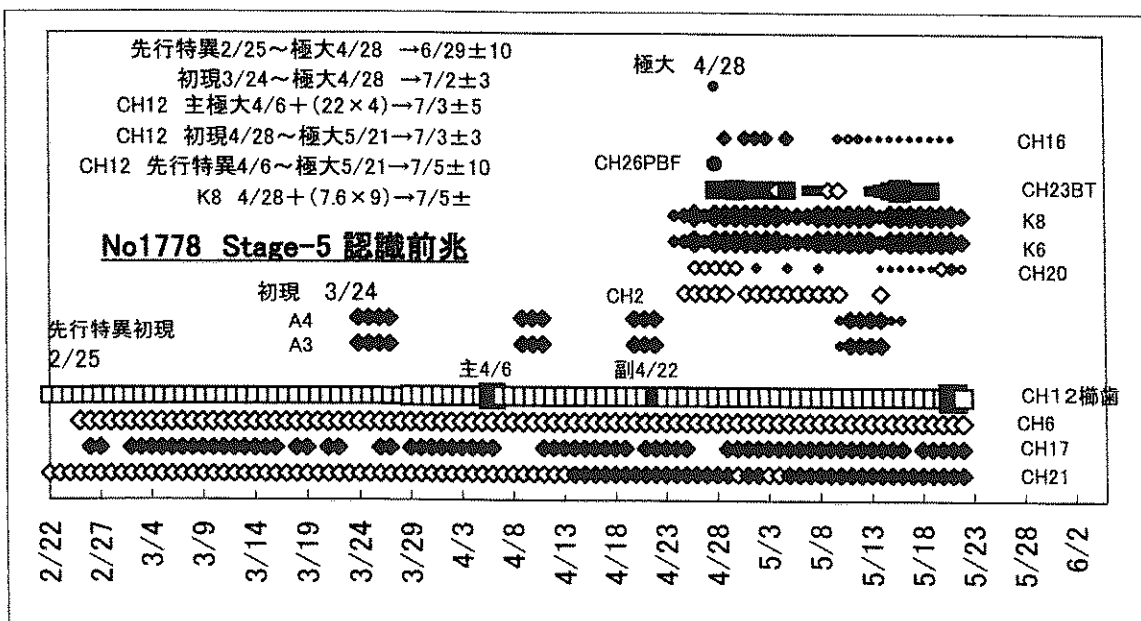
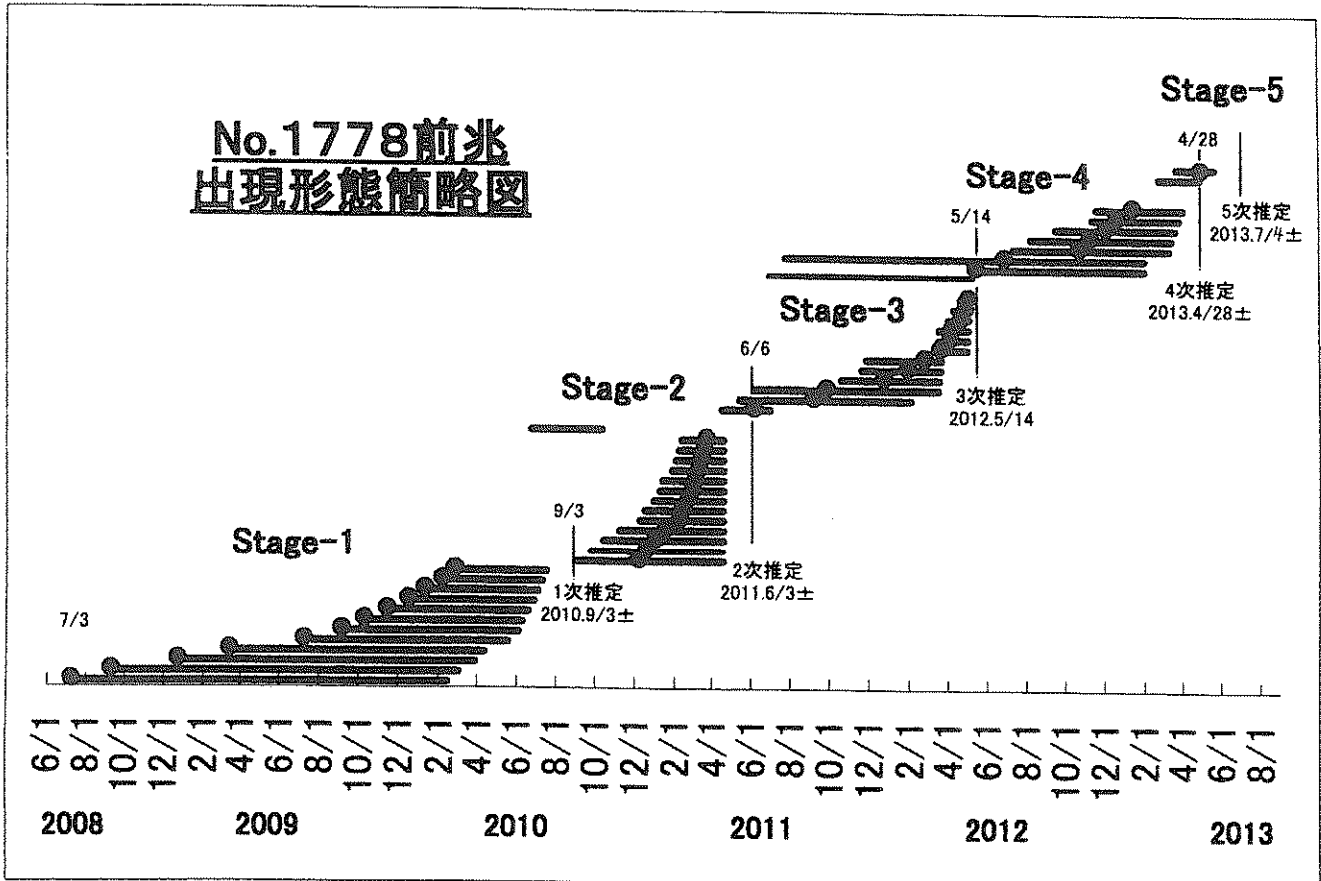


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
 Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏大型地殻地震の可能性前兆 続報

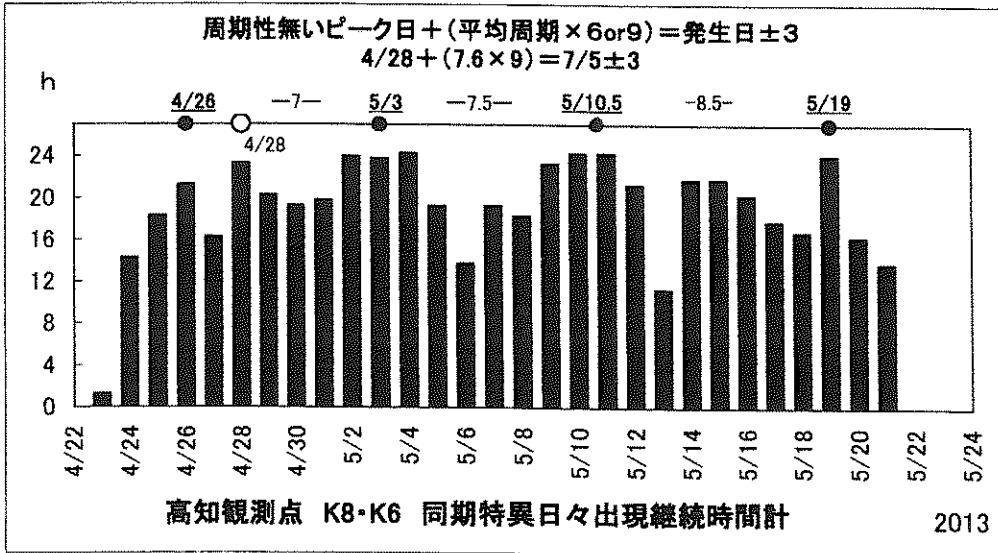


※解説並びに他グラフ続きは次頁No.26記載 (参照)

原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏大型地殻地震の可能性前兆 続報



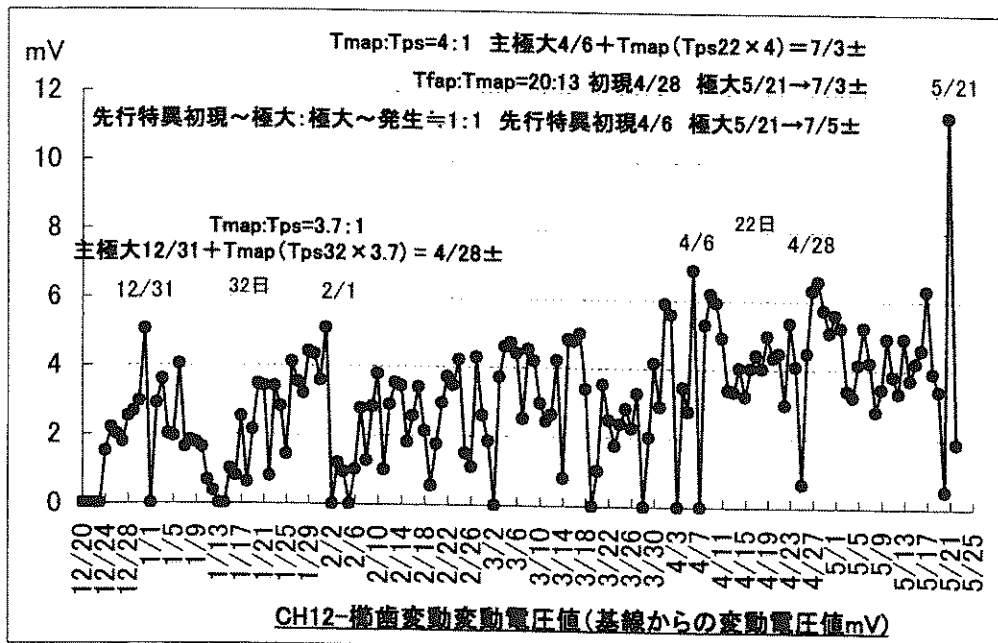
No.1778 長期継続特殊前兆の続報。
前頁上図は、No.1778前兆の初現認識=2008年07月03日から現在に至る約5年近くの前兆継続図です。前兆変化から、現在までに5段階のステージに分類されると認識されます。各ステージの前兆変化から、あたかも発生日の様に推定された日を各次推定として記してあります。各次推定日には、次ステージの前兆極大が出現したり、新規前兆初現となった経緯があります。これ程の複次ステップ的な前兆群が出現する前兆形態は過去例がありません。

また当該前兆には各次前兆群中にステージ3迄は各12個の前兆極大が出現致しました。ステージ4では極大数は減少し、現在のステージ5では極大はまだ1つです。この様な多数極大が出現する前兆形態も過去例がありません。

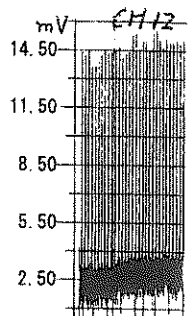
前頁下図はステージ5前兆群(現在)の前兆出現状況図です。CH23BTは既に終息した可能性有。

本頁上図は高知観測点のK6, K8 観測装置同期特異状態の日々の出現継続時間計グラフです。基線幅増大BTの周期性変化経験則と同じ経験則を使用してみますと、7/5 ±が計算されます。

本頁下図はハヶ岳のCH12の基線から楯歯状に突出する地殻地震特有前兆変動の変動値変化のグラフです。前半はステージ4部でステージ5の極大日を示す主副極大が出現致しました。今回は4/6と4/22に主副極大認識をし、経験則から、7/3±が計算されていましたが、下波形のとおり5/21に現在までの最大値変動が観測されました。



5/21は極大認識しない訳にはいかず、4/6, 4/28の主副極大認識は誤りなのかもしれません。但し、例えば、4/6を先行特異初現~5/21を極大。4/28を前兆初現~5/21を極大と仮定しますと、5/21極大に対し、発生日推定日=7/3±と云う、現在認識での他の関係からも示唆される同じ時期を示します。これはこじつけて偶然である可能性がありますが、一応参考まで。ステージ5に入って間もなく一月となりますが、現在までに明確な全体での極大は4/28のひとりのみの認識です。このまま極大が観測されず、6/16±頃に前兆終息が観測された場合には、7/4 ±2 時期に対応地震発生の可能性が示唆されます。今後の観測でより先となる根拠前兆や変化が認められましたら、引き続き続報でご報告させていただきます。



※今回のNo.25, No.26はFAXによる実験観測情報No.2385-1/2 2/2 の一部を使用させて戴きました。ご了承下さい。領域・規模推定はNo.24のまま、発生日推定のみ、早い場合=7/4±2 に修正。(但しステージ6前兆群に移行する場合はより先)